

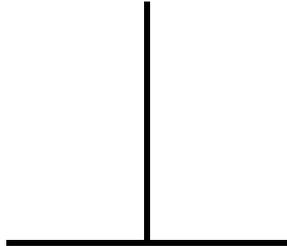
利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
発行人 宮内 伸明
〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp

PTA会長さんとウサギから教えていただいたこと

利根教育事務所長 宮内 伸明

『百聞は一見にしかず』という言葉がありますが、その“一见”も当てにならないことが、現実にはあるようです。右の図は、1851年に発表された「フィックの錯視図」(『試してナットク! 錯視図典』[講談社])と呼ばれているものです。水平線と垂直線のどちらの方が長いのか、物差し等で実際に測り、見た目との違いを実感してみてください。



7月の『インターネットや携帯電話に潜む危険や人権侵害について』の研修会で、小学校のPTA会長さんから「子どもには、五感をフルに活用するような体験をできるだけたくさん積ませてやりたい。そのことが人間を強くし、パソコンや携帯電話を使ったコミュニケーションにおいても、相手の気持ちや心の痛みを推し量れるようになるのではないか」という趣旨の御発言があり、昨年度の事業報告にあった本物のウサギを抱いた小学生の感想を思い出しました。

「ウサギのからだは、とっても温かかった」

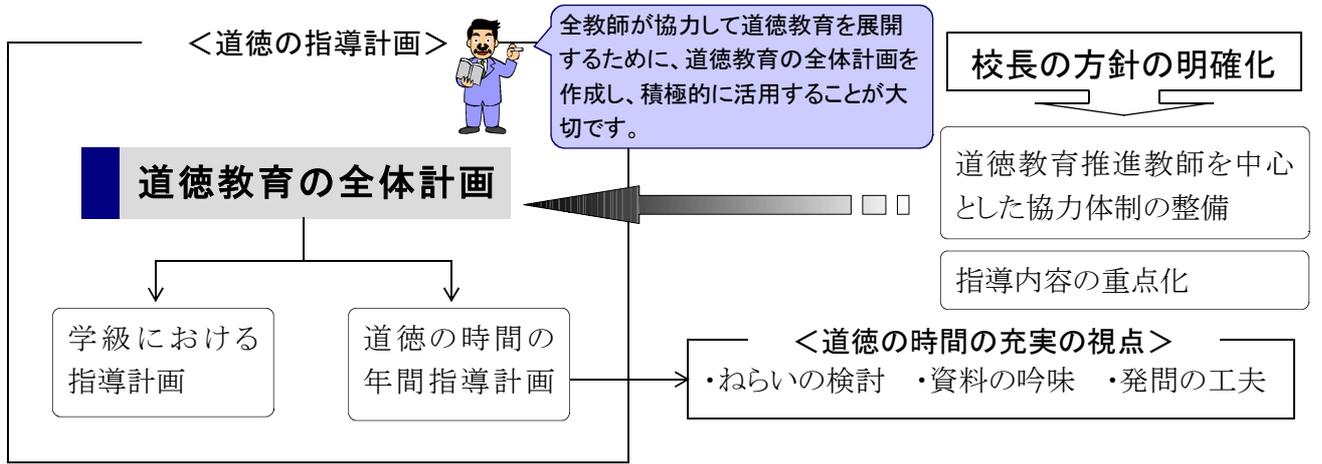
「ウサギの心臓は、私の心臓よりもはやく動いていて、こわがっているようだった」

ウサギの体温や心臓の鼓動を体全体で感じながら、命の尊さや緊張しているウサギの気持ちにまで思いを深めている様子うかがえます。中には、ウサギの柔らかな毛や匂いに強く引きつけられた子どももいました。子どもたちにとっては、『百見は一体験にしかず!』と叫びたくなるような貴重な体験だったことでしょう。

体験活動については、新学習指導要領においても、その重要性が改めて確認され、その充実を図るための具体的な方策が示されています。各学校においても、せっかくの体験活動をその場限りの活動で終わらせないための工夫をされていることと思います。子どもたちにとって学びの多い価値ある体験活動にするためには、「子ども一人ひとりが五感をフルに使って活動する中で、感じたこと、考えたこと、思ったことを相互に伝え合うとともに、個々の感じ方や考え方の違いを認め合えるような『指導の流れ』を意図的、計画的に設定すること」が大事であることを、改めて教えていただいたように思いました。

学校教育係

道徳教育の充実・改善



道徳教育の要である道徳の時間を充実させましょう

道徳の時間の充実のためには、「ねらいの検討」「資料の吟味」「発問の工夫」の三つの視点から授業づくりをすることが大切です。以下、具体的な授業づくりの例を紹介します。

- 小学校1年 ・主題名 「じぶんのちからで」 1-(1)
- ・資料名 「しまの おさるたち」 (学研1年「みんなのどうとく」)



まず、「ねらいの検討」では、学習指導要領の内容項目や児童の実態から、本価値について分析し、「教師の願い」を明確にする必要があります。



私は、子どもたちに「自立の精神」を培いたいと思っていますのですが…。

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。《学習指導要領》小1・2年 1-(1)

《児童の実態》

困難なことや面倒なことは他人の援助を期待する傾向が強い。一人でできたときのうれしさや充実感は理解している。

「資料の吟味」では、「教師の願い」を基に、資料の中心的価値を検討することになります。そして、ねらいを具体的に設定します。

教師の願い
自分でできることは自分で行おうとする意欲や態度を身に付け、節度ある生活をさせることで、「自立の精神」を培いたい。

《資料》

困っているさるたちの心情に着目させ、その後の行為まで考えさせることができるので、自分のことは自分ですることの大切さをわからせ、意欲を培うのに適した資料である。

ね ら い

だいきちざるに頼ってばかりいたために困ってしまったさるたちの気持ちを考えることにより、他人に頼らず、自分でできることは自分でやることの大切さに気付き、自分でできることは進んでやろうとする意欲を培う。

ねらいを具体的に設定したら、中心発問が見えてきました。



＜本時の発問構成＞

〈 導 入 〉

自分の生活を想起させる。

〈展開前半〉

○だいきちざるに、何でもしてもらっていたさるたちは、毎日どんな気持ちでいたでしょうか。

実態を考えると、頼るのが当たり前になっているさるたちの気持ちに共感させ、中心発問につなげると効果的だと思います。

「発問の工夫」では、まず、中心発問を決め、次に、児童がより深く価値を追求できるように、前後の発問を考えたいですね。

◎食べ物なくなり、うろうろと歩き回るさるたちは、どんなことを考えたでしょうか。

※どうしてさるたちは困ってしまったのでしょうか。困らないために、どうすればよかったのでしょうか。



〈展開後半〉

○だいきちざるが帰ってきたら、さるたちはどうだと思いますか。

補助発問で、原因と解決方法を考えさせます。そして、次の発問で、その後の行為に目を向けさせようと思います。

〈 終 末 〉

○これから、みんなはどんなことができそうですか。

※一人でできるとどんな気持ちですとしたいと思いますか。

家族からのメッセージカードを読ませる。

補助発問で、一人で行った場合の快い感覚を確認しようと思います。

